

# インターネットを利用した学習支援システムの研究開発

## - 企業の社会的責任とバリアフリー -

竹岡 弘明（三重県立飯野高等学校）      水守 智士（三重県立名張高等学校）  
杉浦 恵子（三重県立亀山高等学校）      西村有紀子（三重県立昴学園高等学校）  
上野 勝善（三重県総合教育センター）      田辺小百合（三重県総合教育センター）

### 1 研究の趣旨

21世紀の社会は、少子化および高齢化の進捗により社会構造の変革を迫られている。今までの高齢化社会への対応は、国・地方公共団体などの行政機関や一部の企業だけの問題とされてきたが、地域住民が日常の問題として捉えることが必要になってきた。このような現代社会においては、高齢者や障害のある人等が自由かつ平等に生活できる社会の実現を図り、すべての人びとにとって暮らしやすい街づくりを考えなければならない。ショッピングセンターなどの購買施設、鉄道やバスなどの交通機関、快適に過ごせる住居など、一般に知られていないバリアフリー対応の施設・設備を学習教材として取り上げることにより、バリアフリーの社会の意義や地域住民の役割について生徒に理解を深めさせる必要がある。

### 2 研究の内容

商業活動においても、障害のある人や高齢者等のすべての人びとが介添えを必要としなくても、自分自身で購買活動ができる環境を整える必要がある。したがって、一般住居にもバリアフリー対応の施設・設備が設置されつつあるため、障害のある人や高齢者等の人々の目線に立って、日々の社会活動、購買活動を認識するとともに社会の現状調査から探求した。

#### (1) システムの観点

すべての人びとが共に暮らし、共に生きる社会を実現するため、バリアフリーのまちづくりが必要である。本研究では、ショッピングセンターや交通機関が集中している名張市や津市にあるバリアフリー施設の現地取材により調査研究を行った。収集したデータは、動的、視覚的な表現方法を用いて授業等で活用できるように Web ページの形態で開発した。

#### (2) 企業の社会的責任とバリアフリー

現代社会では、情報処理、マーケティング、デザイン、製品企画、広告など各種のサービスを専門的な外部の企業に求め、また、オフィス、店舗の清掃、夜間の警備も専門の業者に代行してもらう場合が多くなっている。

このように、分業がすすみ、すべての経済主体が極めて緊密化した今日の産業社会では、企業にいっそう強く「社会的責任」が課せられるようになってきた。企業の社会的責任について具体的にどのようなことなのかを調査して、企業は、それをとりまく諸環境とどのようにむすびつき、係わっていくべきかを考えた。

#### (3) バリアフリーと融資等の優遇措置

ハートビル法（正式名称「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律」）に基づく認定建築物に対して講じられる支援措置について考察した。

### 3 研究のまとめ

バリアフリーは、本来、物理的な障害を取り除くことだけでなく、精神的にも障害のない社会を意味している。現在は、物理的なバリアフリーをどう解決していくかに重点が置かれているが、それだけでなく、心のバリアフリーを考えていく段階にきているのではないだろうか。建物をバリアフリーにしていくとともに、人が手をさしのべ、お互いのコミュニケーションにより解決することも必要である。ハード面とソフト面を融合し、住み良い社会を実現する手助けを企業として取り組んでいくべきである。今回の課題研修の手法としては、取材をすることにより現状分析を徹底して行った。実際に外に出て、いろいろな立場の方から、直接、話が聞けたことは大きな収穫であった。また、制作段階において取材等で生徒と関わりを持つことができたのは良かった点である。生徒たちと一緒に駅やタクシー会社を訪れ、車椅子で福祉車両に乗車するという貴重な体験ができた。この体験をもとにホームページを作成するなど、その後の授業で果たした役割は大きい。「体験してみないとわからないことはたくさんあります」という生徒の感想からもわかるように、授業においても、できるだけ実体験を多く取り入れ、生徒と共に学んでいく必要性を強く感じた。今後も高齢者や障害のある人などすべての人びとが、自由かつ平等に、商業活動に参加し、社会の発達に寄与できるような理念ある教育を実践していきたい。